

福山いちじくの高品質生産に向けた取り組み

【平成 29 年 9 月 20 日掲載】

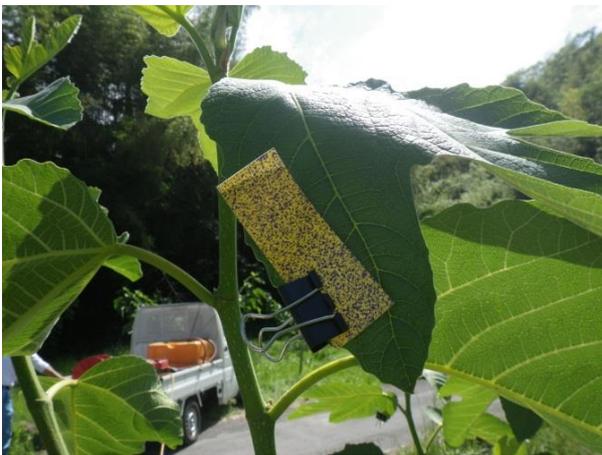
福山いちじく出荷組合（増成進二（ますなりしんじ）組合長，生産者数 48 戸，栽培面積 9.0ha）は平成 29 年 8 月 17 日に JA 福山市川口グリーンセンターの選果場で出荷目合わせを行い，JA の担当者から収穫や選果・箱詰めの際の注意点などの説明を受けました。



【収穫・選果に関する説明を受ける生産者】

福山市で主に栽培されている品種の「蓬萊柿（ほうらいし）」は熟すと果頂部が開口する特徴があるため，収穫判断のポイントは，その開き具合と果皮の着色程度であることや，腐敗の原因にもなる虫の被害などの症状について説明があり，選果時の注意喚起が行われました。

これに先立つ 6 月 9 日には，東部農業技術指導所が関係機関と連携し，集落法人を対象に防除講習会を開催し，ノズルや散布時間によっては，かかり具合が不十分な箇所があることを，感水試験紙を用いて確認しました。生産者からは「十分な薬液量を散布するには思ったより時間がかかることや薬液のかかりにくい場所があったので，次回からの防除に活かしたい。」と好評でした。



【感水試験紙で薬液の付着具合を確認】